

## 6月の授業記録をお送りいたします。

向暑のみぎり——ご父母各位におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

梅雨の長雨もほどなく明け、いよいよ本格的な夏が到来いたします。年毎に厳しくなる暑さ、何でも本年は史上最高の暑さになる可能性もあるとか。ご父母各位におかれましては、お子様の体調管理にくれぐれもご留意くださいますようお願い申し上げます。

梅雨空の下、今月前半は多くの中学校で定期試験が実施されましたが、当塾で実施した「定期試験対策」では連日多くの生徒が入室し、各教室は独特の緊張感や熱気を帯びておりました。結果は努力の証。良い結果を出せた生徒もいるでしょうし、残念ながらそうでない生徒もいるかもしれません。もし今回の試験で思うように成績が伸びなかったら、その原因を突き止め、弱点をしっかりと見出し、それを克服するよう努め、来学期に向けて挽回を図っていく必要があります。



**7月25日(月)より8月31日(水)まで、正味28日間にわたって「夏期講習」が実施されます。**とりわけ受験生にとっては、この夏はまさに「勝負の時」。甘えや誘惑を断ち切って一心に机に向かってもらえるよう、講師一同情熱と誠意を持って指導にあたっていきます。そしてその他の学年の生徒にとっては、この夏休みは学校の進捗にとらわれずに、今までの総復習に力を入れて基礎学力を確かなものとする絶好の機会です。前述したように、もし定期試験の結果が振るわなかった人は、この機会をぜひ存分に活かしていきましょう。

当塾は、受講するみなさんを全力でサポートさせていただきます。ご父母各位におかれましては、お子様を時には叱咤しつつも、お子様の頑張りを見守ってくださいますようお願いいたします。



## ■塾からのご案内■

### ① 夏期講習のお申し込みは、7月21日(木)までに。

すでにご提出済みのご家庭もあるかと存じますが、夏期講習のお申し込みは、7月21日(木)までとなっております。スケジュール調整の都合上、なるべく期限を守ってご提出ください。ただし、部活動等の関係でどうしても遅れてしまう場合は、教室までご相談ください。なお、**受講のご費用は現金にてお納めください。**こちらの納入期限は26日(火)となっております。ご注意ください。なお、8月分のお月謝はございませんので、あわせてご注意ください。

### ② 7月の授業記録は夏期講習の記録と一緒に、9月中旬に。

まもなく夏期講習に入り、生徒指導・教務に傾注いたします都合上、「7月の授業記録」は「夏期講習の授業記録」とあわせて、9月中旬ごろに各ご家庭にお送りいたします。またそれに伴い、8月の「個別指導会 NEWS」もお休みさせていただきます。何卒ご了承ください。

## 学習のアドバイス

今回のテーマは理科の「ビジュアル問題」です。ビジュアルとは図や絵のこと。教科書にもたくさんの写真や絵が出ています。そして、テストはだいたいこの「図や絵」とともに出題されます。ですから、「ビジュアル問題」に慣れることが、短期間で成績を上げる秘訣ということになります。それではその攻略法を以下に見ていきましょう。

最初の攻略法は、用語を覚えるときには、図と一緒に覚えるということです。生物(動物・植物)や地学(天気・

天体)の分野では教科書の図を自分で描いてみて、そこに用語を書き込んで覚えるという方法が有効です。また化学や物理の分野ではグラフがよく出てきますから、その意味を確認したうえで、大体の形を覚えてしまいましょう。

2つ目の攻略法は、実験や観察に積極的に参加するという事です。「ビジュアル問題」は言葉だけでは説明しにくい実験や観察についての理解度を問うものですから、その内容については、他人がやっているところを見ているよりも自分で経験した方が確実に記憶に残ります。ただし、そのままではやがて忘れてしまいますから、気づいたことをきちんとノートにまとめておきましょう。そして、テスト前になったら読み直してその内容を思い出してください。

最後の攻略法は、とにかく学校で使用しているワークを繰り返し解くことです。「ビジュアル問題」に強くなるためには、与えられた図や絵、グラフなどから必要な情報を的確に読み取る力が必要ですが、それを身に付けるにはやはり実際に問題を解くしかありません。特に学校のワークは教科担当の先生の思いが詰まっていますから、その中の問題をそのまま抜粋したり、文章の書き方や図を微妙に変えたりしてテストに出題する可能性がかなり高いはずで

「ビジュアル問題」は入試での割合が年々高くなってきています。ここに挙げた攻略法を実践して、得点源にしてください。



## 平成28年度入試を振り返って ④

今回は県立高校入試の難易度について分析しましたが、いかがでしたでしょうか。今回は県立高校の学力レベルごとに、その特徴を分析してまいります。

偏差値60以上の上位校では、数学と理科で差がつかまりました。数学は、問題が去年よりも易しくなって点を取りやすくなりましたが、1問の配点が他の教科よりも高いためにちょっとしたミスで大きく差がついたようです。理科は問題の難易度が上がって最も得点に開きが出る教科となりました。

偏差値51の中堅校では、英語と社会を得点源にできたかどうかポイントとなりました。どちらの科目でも合格者と不合格者の平均では10点近く差がついています。

偏差値50以下の下位校では、英語で大きく差がつかまりました。また、偏差値が低くなればなるほど社会と理科で得点が稼げるかどうか合否の分かれ目になった模様です。

内申点(通知表の成績)についてですが、上位校と中堅校は中1・中2が横ばいで中3になって伸びる傾向にあるのに対し、下位校は中2で内申点が一度下がってしまいます。ということは、中2で内申点を伸ばすことができれば、かなり有利な立場になりますので、早めの対策が必要と言えそうです。



## 教室長日記

### 音読について



「素読」ということばを知っていますか?これは江戸時代に行われていた学習方法の一つで、「漢文などの古典の文章を大きな声に出して読む」という、いたってシンプルなもの。明治時代に入り、文章を黙読(目読)する習慣が広がるとともに、「素読」は次第に行われなくなりました。一方で、文章を声に出して読むという学習方法——すなわち「音読」は、今でも教育の現場に残っています。

学校で暗誦する名文、例えば平家物語の「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり…」という冒頭の有名な一節。言うまでもなく、そこには非常に含蓄のある表現がこめられていますが、実際この部分を黙読すること自体は、あっという間、容易なことだと思われ

しかし字面をただ目で追うだけでは、その文章に込められた深い意味を汲み取り、自分の中で反芻(繰り返し考えて味わうこと)をせず、先へ進んでしまいがちになりませんか…?

声に出してその一節を丁寧に読み上げると、当然スピードは遅くなりますが、その分目と口と耳を使って文章に向き合うことができます。すると、日常で使っている言葉とはまったく異質の言葉を使うことによって、今自分が生きている日常とは違う「別の世界」を感じることができるのです。

**目だけで文章を追わずに、声に出してしっかり読むということ。**これを意識していくことで、あなたも日常とはまた違った世界の扉を開くことができるかもしれませんね。

(所沢校 中島)